

1988年度卒業

大阪大学 教授・接合科学研究所 副所長 桐原 聡秀さん

私は1986年に日立第一高等学校へ入学しました。当時の高校生活で印象に残っているのは、2年生の夏に高校野球の応援を担当する、応援委員会に所属したことです。県予選の球場スタンドで応援合戦に参加し、面の直径が1mで柄の長さが2mはある、巨大な団扇を炎天下で振り続けました。汗だくでしたが、野球部員とスタンド生徒の一体感を演出できたと思います。また、同時期にアルバム委員にも所属しており、今では懐かしい光学式のフィルムカメラで写真を撮りながら、球技大会で同級生の活躍を撮影しました。

卒業後は茨城大学工学部に入学し、1999年に工学博士号を取得しました。その後は大阪大学接合科学研究所で研究員になりました。実は全国の大学には工学部などの他に、研究所と呼ばれる部局が多数あります。特定の目標に向けて研究を進める組織であり、いろいろな学部と連携しており、学生も卒業論文を作成するために在籍しています。先生と呼ばれる教授・准教授・助教の他に研究員という職があり、私はここからスタートしました。その後は変わらず大阪在住で、日立で過ごした年月と同じ長さを、この地で暮らしています。

研究で最初に手掛けたこと、接着材にレーザー光線を照射して、プラスチック製の立体構造を素早く作れる光造形プロセスでした。これは現在の3Dプリンターの元になる方法で、当時急速に普及した携帯電話や、自動車の設計模型を作るために利用されていました。私はプラスチックの構造へ金属やセラミック粉を練り込み、実用的な部品を製造することに挑戦し成功を収めました。現在では産業用3Dプリンターとして利用し、新しい蓄電池や発電機などのデバイスははじめ、人工骨や人工歯などのインプラントも開発しています。

高校生の時に勉強した内容は、今でも思い浮かびますし役に立ちます。得意な教科や苦手な教科はいろいろありました。変わらず心がけていることは、「最初は良く理解できないと思う内容でも、敬遠せずに頭の片隅に置いておく」ことです。その後に、思いもよらないところから着想を得て、「片隅の知識」が突然動き出し、結合して新発想が生まれることもあります。今現在「苦手だな…」と思う内容でも、将来皆さんを助けてくれる可能性があります。ぜひ毎日の高校生活を楽しみ、勉強や課外活動を充実させてください。

様々な分野で活躍する卒業生

2010年度卒業

筑波大学附属病院 がん専門薬剤師 宇野 彩香さん

高校時代の私は、「英語を使って国際的に活躍したい」と考えていました。進路を考える中で、資格を通して将来の可能性を広げながら、研究にも携われる薬学の道に魅力を感じ、薬学部への進学を決めました。

高校1年生のときには、イギリス海外研修に参加し、現地の医療制度について学ぶ機会がありました。しかし当時の自分の英語力では十分に理解することができず、悔しさが残りました。その経験が原動力となり、大学2年生でヨーロッパ薬学研修に参加し、海外の医療現場を見学しました。日本とは異なる先進的な取り組みに触れ、海外の医療に対する憧れが芽生えました。さらに大学5年生のときには、がんのチーム医療を英語で学ぶプログラムに参加し、国際的に活躍する薬剤師の姿を目の当たりにしました。そしてそのとき初めて、自分も「この分野で患者さんの役に立ちたい」という思いがはっきりと形になりました。

大学卒業後は筑波大学附属病院に就職しました。何度も挑戦を重ねた末、MDアンダーソンがんセンターでの短期留学の機会を得て、自分が本当にやりたいことと向き合うことができました。その中でたどり着いた答えが、「日本でがんのチーム医療に貢献し、患者さんにより良い医療を届けたい」という思いでした。帰国後は同じ志を持つ仲間や先輩方に支えられながら研鑽を積み、がん専門薬剤師の資格を取得することができました。

日立一高での経験は私の原点でもあります。SSHクラスでは貴重な経験をさせていただき、挑戦したいことを後押ししてくださる先生方や仲間がいます。今でも大切な存在です。

高校時代に「これが自分の夢だ」と言い切れる人は、決して多くありません。私自身もそうでした。しかし、目の前のことに向き合い、小さな挑戦を積み重ねていく中で、少しずつ自分の進みたい道が見えてきます。興味があることがあれば、ぜひ高校生のうちから一歩踏み出してみてください。その経験が新しい出会いや気づきを生み、数年後のあなたをきっと支えてくれるはずです。

現在は、子育てと仕事の両立に奮闘する日々を送っていますが、これまでの経験が今の自分を支えてくれていると実感しています。これからも患者さん一人ひとりに寄り添いながら、がん医療に貢献できる薬剤師でありたいです。





成澤 優真
大久保中出身 弓道部

長崎大学 薬学部

「充実していた白壁での日々」

将来、副作用の少ない医薬品の創薬をすることを目指し、サイエンス科の中に医療系コースのある日立一高を志望しました。そこで学んだ理科専門3科目は大学での専門科目の理解に大きく役立っています。学校では多くの生徒が委員会や部活動に励み、その姿に刺激を受けて自分の意欲も高まりました。さらに一高には生徒のやりたいことを尊重し夢を後押ししてくださる先生がたくさんいます。ぜひ、この白壁の学び舎で充実した最高の高校生活を送ってみませんか。

田山 阿太郎
千波中出身 ラグビー部

北海道大学
理学部・物理学科

「好奇心を学びに・・・」

祖母に買ってもらった相対性理論の本をきっかけに物理に魅了された私は、「もっと物理を知りたい」という好奇心を持ち、白壁研究ができるサイエンス科がある日立一高を選びました。日本天文学会ジュニアセッションにも参加し、本格的な研究や発表ができたことはいい経験になりました。また、勉強だけでなく部活動にも全力で取り組んだ日々は、私を大きく成長させてくれました。

現在は、都市と豊かな自然が共存する北海道大学で楽しく勉強しています。今は重力理論の研究を志しています。人生を豊かなものにするのは好奇心だと私は思います。その対象は常に同じである必要はなく、その時の自分の気持ちに任ずるのがいいと思います。皆さんもぜひ日立一高で良き人生への一歩を踏み出してください！



教育学部
教育学研究科

丸山 晴輝
東海南中出身 野球部

茨城大学
教育学部・学校理科

「全力で熱中できる 茨城で随一の学校」

私は将来、中学校の先生になりたいという夢がありました。中学まで野球をやってきたため、レベルの高いところでプレーをしたいという思いもあり、日立一高を目指しました。一高で3年間過ごして感じたことは、行事が充実しているということです。クラスマッチ、文化祭、体育祭を1年間で全て行い、全力で熱中できる学校は茨城でここだけではないでしょうか。その上、私が特に感じたことは、いい意味で不思議で面白い先生たちが多くいるのも日立一高だけだということです！（笑）

勉強が好きになったかということとははっきり断言できませんが、この学校で過ごすことは私にとって、すごく好きなことでした。皆さんが思っている何倍も楽しい学校なので是非とも日立一校を目指して頑張ってください！

令和7年度 卒業生からのメッセージ

Message from graduates

砂押 愛
勝田第二中出身 吹奏楽部

横浜市立大学
国際教養学部・国際教養学科

「カラフルな高校時代」

吹奏楽の東関東コンクールに出場するため、私は日立一高に入学しました。目標には届きませんでしたが、学生指揮者をさせていただいたり、大きなソロを任せてもらえたことは良い思い出です。部活には真剣に取り組み、行事では友達と楽しく盛り上がりたりと勉強一色ではないカラフルな高校時代でした。これを読んでいる皆さんも高校生活に期待するものがあるかと思います。皆さんが全力で挑めば、日立一高は期待以上のものを返してくれるはずです。皆さんに良い春がやってきますように！



菅原 愛菜
磯原中出身 女子バレーボール部

筑波大学
人文・文化学群比較文化学類

「ともに乗り越えた受験期」

私はやりたいことが明確に決まっておらず、将来の可能性を広げるため、より高いレベルで学ぶことのできる日立一高、筑波大学への進学を目指しました。日立一高では勉強や部活動を共に頑張ることができ、仲間と出会うことができ、受験期も白壁会館で勉強する多くの3年生と共に乗り越えることができます。やりたいことが明確に決まっている人も決まっていない人も何事にも全力で取り組むことができる日立一高で充実した高校3年間を送りましょう！

山崎 駿哉
泉丘中出身 地学部

千葉大学
法政経学部・法政経学科

「やりたいことが できる自分に」

日立一校の良さはやりたいと思うことがやりやすい環境であることです。

一高生の同級生や先生、先輩、後輩までもが手伝ってほしいと言えは手を差し伸べてくれる人が多いです。先生のサポートも手厚く、壁にぶつかったとしても必ず越えられます。文化祭や部活動、受験勉強など何に対しても頑張ってる人が多く、頑張りたい環境があるのも日立一校の魅力です。頑張りたいことがあるなら日立一校への入学することを強くおすすめします。

